沙野古通信第70号 2019年5月5日



発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜) 沖縄講座 HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/

■天皇代替わりで翼替報道が巷にあふれ ている。しかし 1947 年の「天皇メッセー ジ」(*)が現在の沖縄の軍事植民地状況 の根源にあることを忘れるわけにはいか ない。■3/25 辺野古の新たな区域への土 砂投入が強行された。翌日には奄美・宮古 への陸自部隊の配備も始まった。その宮 古島駐屯地の「保管庫」に、中距離ミサイ ルや迫撃砲がこっそりと持ち込まれてい たことが発覚した。沖縄防衛局は住民に 「駐屯地には弾薬庫は置かない。保管庫 には小銃弾や発煙筒を置く」と嘘の説明 を繰り返していた。石垣島の陸自施設建 設も、県条例の適用除外―アセス逃れの ために 3/1 に強行着工された。■4/5、石 井国交相は「私人なりすまし」と行政法学 者から批判されていた沖縄防衛局の行政 不服審査請求を裁決し、すでに効力を停 止していた埋立て承認「撤回」を正式に取 り消した。実は国交省の裁決書で引用し た専門家の鑑定書には軟弱地盤の追加調 査の必要性に言及した記述があったが無 視された (4/9 琉球新報)。 県は 4/22 国地 方係争処理委員会に審査を申し出た。■ 政権の強硬姿勢は明らかに沖縄戦以来続 く米軍の「占領者意識」を増長させてい る。4/3 夜、米海兵隊が高江の住民がヘリ パッド建設工事を監視するための N1 テン

トを勝手に撤去したことが判明した。テ ントは住民によりすぐに再建されたが持 ち去られた資材は返ってこない。海兵隊 が提供施設の敷地外での住民の抗議監視 活動に対して直接的に実力行使に及ぶの は異例の事態だ。 ■4/13 北谷町でキャン プシュワブ所属の海軍兵による女性殺害 事件が起こった。米軍は、女性が危害を加 えられる恐れがあるとして 1 月に兵士に 対し接近禁止命令まで出しながら犯行当 日外泊許可を与えていた!沖縄では怒り の声が渦巻いている(2頁の資料参照)。■ 4/21 衆議院沖縄 3 区補欠選挙は、玉城デ ニー知事の後を継いだ「オール沖縄」推薦 の屋良朝博氏が勝利した。辺野古新基地 反対の民意が改めて示されたが、政府防 衛省は埋立て作業を続行した。■土砂投 入を止めよう!辺野古に駆けつけよう。 安倍政権を包囲し、暴走を止めよう!

■辺野古現地へカンパは**累計 2,696,197** 円(4/23 現在)。**引き続きカンパを!** 取ば 20210 0,2021 対郷東佐港原

郵振口座 00210-0-2021 沖縄連続講座

(*)昭和天皇がマッカーサーに宛てた 1947 年 9 月のメッセージ。「25 年から 50 年、あるいは それ以上」の米軍による沖縄占領の長期継続を 希望するとした。日本の安全保障を確保するために沖縄を米軍の占領基地化するという日米 安保体制の原像がここに示されている。

ストップ! 辺野古埋立て 6.5 横浜の集い

6 月 5 日(水) 18 時半神奈川県民センター・ホール

■発言:安次富浩はしとみひろしさん(ヘリ基地反対協共同代表)

元山 仁士郎(もとやまじんしろう)さん(「辺野古」県民投票の会)

■資料代:800円(学生無料)

■主 催:島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会

政府・防衛省はジュゴンを死に追いやった責任を免れない!

3/18 夕刻、今帰仁村運天漁港沖の防波堤にジュゴンの死骸が漂着しているのが発見された。これまで沖縄防衛局の調査で3頭が確認されていたが、辺野古の海上工事着手後に2頭の行方が分からなくなり、今回死骸で発見されたのは本年2月まで唯一確認されていた1頭だった。「頭部や顔、胸のひれに傷や出血の跡があったほか、ところどころ皮がむけていた」(3/20琉球新報)。沖縄防衛局は「工事の影響とは考えにくい」としているが、本当にそうか。

第一に、埋め立て工事でジュゴンの餌場が破壊されている。現在土砂投入が行われている浅瀬部分にはジュゴンの好物である海草が群生していた。防衛局の調査でも昨年の12月以降、海草の食み跡が発見できなくなっている。工事の騒音や振動、赤土による汚濁で餌場に近づけなくなったと考えられる。

第二に、辺野古から辺戸岬を巡って今帰仁までのルートはジュゴンの回遊ルートであり、本部から辺野古までの土砂運搬船の航行ルートと重なっている。 死骸の状況から船との衝突、船から流出した石材や土砂の影響も考えられる。

当初から危惧されていたことが現実となった。ジュ

ドローン規制法改正案の問題点

4/16 ドローン規制法改正案が衆議院を通過した。 政府は通常国会で成立を狙っている。改正内容は、 首相官邸・原子力施設上空のドローン飛行を禁じて いる現行法に、ラグビーW 杯や東京五輪会場のほ か、自衛隊・米軍施設を加えるものだ。「テロ対策」 が表向きの理由だが、軍事施設の取材・市民による 監視の規制に狙いがある。主目的とされる W 杯や 五輪施設上空の規制は暫定措置で、報道機関には例 外措置を取るとされているが、軍事施設は周辺 300m までを恒久的に飛行禁止とし例外規定もな い。米軍の提供水域も禁止区域に含まれる。災害時 の自治体でさえ、例外なく「司令官の事前同意」を 義務付けている。

高江や辺野古の基地建設現場のドローン撮影が工事の進捗状況の公開、杜撰さ、違法性、環境破壊の実態などを暴露するのに威力を発揮し、以前から米軍から防衛省にドローン規制の圧力がかかっていたことは周知の事実だ。すでに新聞協会・日本民間放送連盟が批判声明を発している。

警察は米治安機関が導入している電波妨害装置ジャミングガンなどを装備し、操縦者が命令に従わなければドローンの飛行妨害や破壊ができる。米軍や自衛隊の都合を優先した法改正は許されない。

見過ごせないのは「警官や海保がいない場合」の限定付きだが**自衛官に取り締まり権限を与えていること**だ。自衛隊で取り締まりに当たるのは旧日本軍の憲兵にあたる警務官や警務隊であり、隊内に限定されてきた捜査権限が拡大することになる。

ゴン保護のために手を打つどころか、生息環境を悪化させ、餌場から追い出し、死に追いやった政府・防衛省の責任は免れない。 ジュゴンの死骸発見を受けて、県や環境団体は工事を中断してジュゴンの生息状況の調査を求めた。 沖縄防衛局は調査を拒んでい

たが、3/28 の環境監視 等委員会で委員から指 摘されるや3か月間程 度ジュゴンの生息調査 をすることになった

(3/29 琉球新報)。しかし、埋立て工事は中断することなく進めている。

ジュゴンの死は、辺野古の埋め立て工事がいかに環境に多大な打撃を与えているかを象徴する事態と言える。







資料米大統領・安倍首相・沖縄県知事他宛て要求書

4月13日未明に北谷町の民間地で発生した米海軍兵士による女 性殺害事件に、悲しみとともに大きな衝撃を受けています。加害 者米兵も自殺していることから、事件の詳細は不明ですが、事件 は基地の外で起こりました。(中略) この4月は、2016年に殺害 された女性の丁度3年忌に当たりますが、あの事件後に日本政府 が実施している「パトロール」も、形骸化した対策であることは 明らかです。/ 私たちは何よりもまず、奪われた尊い命を悼みま す。彼女がどれほどの恐怖と苦しみのなかにあったか。これは沖 縄に暮らす私たちすべてに起こり得ることです。亡くなった女性 はもう抗議ができません。彼女の痛み苦しみを共にする者として、 私たちは声を上げます。/ 私たちは、基地・軍隊の長期駐留が押 し付けられている沖縄で、幾度となく繰り返される事件のたびに、 被害者を貶める発言や態度にも、幾度となく引き裂かれてきまし た。第一に、被害に遭った人の尊厳が守られるよう、強く求めた いと思います。/ 私たちは、「軍隊は構造的暴力組織であり、平時 と戦時とを問わず、人間の安全を保障しない」と訴え続けてきま した。基地・軍隊は、人間の心と身体を深刻なまでに破壊してお り、その暴力はフェンスの内と外とを問いません。私たちは、今 こそ共に怒り、抗議の声を上げる時です。

私たちは、日米両政府、米軍、沖縄県に対して、基地・軍隊の駐留がもたらすこのような現実を直視し、責任ある行動を執るよう、以下のことを強く要求します。

- 一、被害者を取り巻く人々と子どもたちへの謝罪と保護、ケアが 行われること。
- 一、真実が究明され、加害の原因分析が完全に沖縄の人々に知ら されること。
- 一、米軍の基地外行動の規制を緩和しないこと。
- 一、沖縄に暮らす人々の人身の保護について、日本政府と沖縄県 の責任のあり方を明確にすること。
- 一、沖縄に暮らす人々の真に安全な社会を実現するため、沖縄から全ての基地・軍隊を撤収すること。

2019年4月16日

基地・軍隊を許さない行動する女たちの会他

再開発の狙いは?

辺野古に建設されようとしている米軍基地は、単な る「普天間代替施設」ではなく、軍港機能を持つ新た な巨大軍事施設であることはこれまで指摘されてき た。辺野古弾薬庫の再開発計画も機能強化の一つだ。

辺野古弾薬庫は核兵器貯蔵施設の一つ

4/23、キャンプシュワブ内にある辺野古弾薬庫の建 て替え工事が進んでいる様子が、沖縄地元紙のドロー ン撮影によって確認された(4/24 琉球新報)。沖縄防 衛局は「既存の弾薬庫を建て替えるものであり、新た な機能を追加するものではない」としている。

情報公開された 2014 年作成の米海兵隊文書による と、「13の弾薬庫を取り壊し、12の新たな弾薬庫と武 器の組み立て区画とする。未開発地を含む大規模な土 木工事が必要だ」と明記。普天間飛行場の辺野古移設 を前提にした「新たな任務」への対応が目的とされた。 弾薬庫4棟2100㎡の建て替え工事が始まり工期は20 年3月まで、現時点の契約金額は約24億円に上るが、 防衛省は「2006 年の美軍再編ロードマップに基づく シュワブ内の施設再編の一環」と位置づけ費用を政府 で負担している。

この再開発計画が見過ごせない理由は、辺野古弾薬 庫が、1969年の日米核密約に「何時でも使用できる 状態に維持しておき、極めて重大な緊急事態が生じた ときには活用できる」と明記されたように、嘉手納と 並ぶ主要な核兵器貯蔵施設の一つだからだ。再開発計 画が明るみに出たのは 2017 年 11 月。NHK のスクープ ドキュメント「沖縄の核」(最初の放映が 2017 年 9 月、拡大版が12月)が大きな反響を呼んだ時期と重 なる。番組では、1950年代、アイゼンハワー政権の 「ニュールック戦略」(ソ連を囲むように核戦力を配 備する方針)の下で沖縄への核配備が進み、沖縄全島 が壊滅しかねない核ミサイルの誤射事故もあったと いう衝撃の事実が暴露された。50年代に本土の海兵 隊が沖縄に移駐した理由の一つに米国の核戦略があ ったという指摘も重要だ(ドキュメントの詳細は松岡 哲平著『沖縄と核』新潮社 2019 年参照)。

「沖縄への核配備」は過去の問題ではない

2018年2月、トランプ政権が新たな核戦略指針を 発表し、中露に対抗して戦術核の小型核開発を打ち出 す(本年1月米エネルギー省核安全保障局(NNSA)は 潜水艦発射弾道ミサイル (SLBM) に搭載する小型核弾

琉球新報 2019/04/24

建物建て替え工事などが確認された米軍キャンプ・シュワブの弾薬庫敷地 (手前)。付近には活断層の存在も指摘されている=23日午前11時45分ご ろ、名護市辺野古 (小型無人機で撮影)





合管理計画」は「13の弾薬庫

存の弾薬庫を建て て替えるも

頭の生産を始めたと明らかにした)。

同年3月、以下の事実が報道された。2009年2月、 米連邦議会が設置した戦略体制委員会による在米日 本大使館関係者への意見聴取の中で、「沖縄やグアム への核貯蔵庫の建設をどう考えるか」という問いに秋 葉剛男公使(現外務事務次官)が「そうした提案は説 得力がある」と答えているのだ。このやり取りのメモ を入手した米科学者団体「憂慮する科学者同盟」のグ レゴリー・カラキ上級アナリストは、辺野古新基地建 設と連動した弾薬庫の再開発を挙げ、「沖縄への核再 配備という選択肢を消すためにも、新基地建設計画は 阻止しなければならない」と強調している(2018年 3/6沖縄タイムス)。「沖縄への核配備」は、決して過 去の問題ではない。

辺野古に行こう!沖縄県庁前から辺野古行きバスがあります!

那覇空港からレンタカーで辺野古に向かうのが便利ですが、那覇市内県庁前県民広場から沖縄平和市民連絡 会が島ぐるみ会議やオール沖縄と連携して月~土曜日に辺野古行きのバスを運行しています。平和市民連絡 会の HP http://www.jca.apc.org/heiwa-sr/jp/で運行状況を確認してください。行きは8時半受付9時発、帰 りは辺野古16時発-県民広場17時半着が基本。バスの運行費用はカンパで賄っていますので、ご協力を!

報告 3.11 横浜集会で高里鈴代さん。大久保奈弥さんが講演

3/11(月)夕刻、横浜市開港記念会館にて「辺野古の海を土砂で埋めるな!サンゴを壊すな!3.11横浜集会」が開催された。主催は島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会(以下、結ぶ会)、後援が神奈川平和運動センター・基地撤去をめざす県央共闘会議。沖縄現地の緊迫した状況もあり、定員110人の会場は満席となり人があふれた。

最初に結ぶ会が2月上旬に実施した辺野古座込みツアー(16人参加)の映像上映。辺野古の工事用ゲート前での座込み行動、安和の琉球セメント桟橋ゲート前での抗議行動の様子が映し出された。続いて結ぶ会の高梨晃嘉代表世話人から主催者挨拶があり、サンゴ研究者の大久保奈弥東経大准教授、オール沖縄会議の高里鈴代共同代表のお二人が、パワーポイントで映像を駆使しながら講演。二人の講演の間に、結ぶ会の仲宗根保代表世話人から辺野古派遣基金のカンパ要請があった。

「サンゴ移植は環境保全措置にならない」(大久保さん) 「遅すぎる正義は正義ではない」(高里さん)

大久保さんはサンゴ研究者の立場から「サンゴの移植は環境保全措置になりえない」と断言。サンゴの保全を全く考慮することなく埋め立て工事を進める防衛省の姿勢を厳しく批判、その防衛省の杜撰なやり方にお墨付きを与えている環境監視等委員会の委員ー研究者の責任に言及した。大久保さんのお話は「サンゴの詳しい話は初めて聞いた」「とても分かりやすかった」と大変好評だっ





た。高里さんは、まず辺野古埋め立て反対の明確な民 意を示した県民投票の意義を強調。辺野古の問題が 1995 年の米兵による少女レイプ事件を契機に浮上し てきた経緯を振り返った。そして本土防衛の捨て石と された沖縄戦と米軍占領が、現在の巨大な米軍基地の 歴史的淵源となっていることも指摘。「沖縄の抵抗は 続く。軍事化に向かうこの国を変えないと、押しつぶ され、辺野古も埋立てられてしまう。みなさんの奮闘 も期待したい」と締めくくった。高里さんのお話から 沖縄の人々の熱い思いが伝わってきた。「あきらめな い」という思いがあっても、その間に死滅していくサ ンゴがあり、多くの命が埋まっていく、闘いの中で倒 れていく人もいる。「遅すぎる正義は正義ではない」 一高里さんが発したこの言葉は、ヤマトに暮らす私た ちへの重い問いかけに思えた。(講演録は沖縄講座ブ ログ掲載 https://okinawakoza.at.webry.info/)

集会の最後に沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックから、3/25 の新たな区域への土砂投入阻止に向けた首都圏の取り組みが提起された。また戦前の日本人学者が沖縄から盗掘した琉球人遺骨が京都大学に保管されている問題で、遺骨返還訴訟が取り組まれていることが紹介された。参加者から寄せられた辺野古派遣基金カンパは約10万円集まった。集会終了後、会場近くで高里さん、大久保さんを囲み交流を深めた。

土砂投入を中止せよ!3.23-25

防衛省が、県民投票を全く無視して「3/25 新たな海域への土砂 投入」を宣言する中、結ぶ会も参加する「辺野古の海を土砂で埋め るな!首都圏連絡会」(埋めるな連)は 3/23-25 にかけて集中行 動を展開した。3/23(土)には首都圏 23 カ所の駅頭で一斉キャンペ ーン(結ぶ会は横浜駅西口でアピール)、3/24(日)には東池袋中央公 園で集会&デモ行進(写真上)。参加者は450人。沖縄から平和運 動センター議長の山城博治さんから電話メッセージが寄せられ た。新たな土砂投入が予定された 3/25(月)は朝 8 時から官邸前に 座込み、出勤する官公庁職員にアピール。参加者は最初は約20人、 午後には50人、夕方4時半からの集約集会には200人に。辺野古 に通うダンサーの大浦湾の豊かな海を表現する舞い (写真下)、若 いミュージシャンの唄とギター演奏、高江の森の小さな生き物を 観察し米軍基地による環境破壊を告発している「アキノ隊員」の発 言、伊波洋一・福島瑞穂参議院議員のアピール、参加者のリレート ークと盛り沢山。午後3時に新たな海域への土砂投入が伝えられ た瞬間、官邸に向かい怒りのシュプレヒコールを浴びせた。

